健康コーナー

地域保健課
☎21-5354

保健センターの保健事業　1月10日(土)～2月9日(月)の保健事業（1月1日～9日は広報くき12月号に掲載）

種別	日程	場所	対象者
成人健康相談【要予約】	毎週月～金曜日（祝日を除く）	中央保健センター	市内在住者
食生活相談【要予約】	毎週月～金曜日（祝日を除く）	中央保健センター	市内在住者
精神保健福祉士・保健師によるこころの健康相談【要予約】	1/28(水) 13:30～15:30 ※保健師による相談日	中央保健センター	意欲の低下やひきこもり傾向にある方等 ※家族などからの相談も可
不登校・ひきこもり家族のつどい	1/19(月)、2/9(月) 14:00～16:00 ※1/19は臨床心理士が同席	久喜中央コミュニティセンター	登校拒否・不登校・ひきこもりで悩んでいる家族

・・・急な病気やけがのとき・・・

お医者さんに行くか迷ったらまず相談！

休日診療のお知らせ

市では、休日に緊急に治療が必要な方のため、次のとおり診療体制を整備しています。
※診療を希望する方は**必ず事前に電話をしてください**。

内科

日程	時間	医療機関
1/1(祝)・2(金)・3(土)・4(日)・11(日)・12(祝)・18(日)・25(日)、2/1(日)・8(日)	9:00～12:00	新久喜総合病院 ☎26-0033

小児科

日程	時間	医療機関
1/4(日)・11(日)・18(日)・25(日)、2/1(日)・8(日)	9:00～12:00（予約受付時間 8:00～11:30）	扶顛堂たかぎクリニック ☎21-0124
1/1(祝)・2(金)・3(土)・12(祝)	9:00～12:00	土屋小児病院 ☎21-0766

休日診療では、軽度の救急患者への応急的な診療を行っています。かかりつけ医のある方は、受診後に治療の内容や処方薬などを医師に伝えてください。また、救急車による搬送の対応を行っている医療機関もありますので、できるだけ診療時間内にかかりつけ医を受診するなど、適切な受診にご協力ください。

電話相談・案内

●埼玉県救急電話相談 #7119（24時間対応）
※ダイヤル回線・IP電話などからは ☎048-824-4199
ガイダンスに応じて、下記3つの窓口から選択してください。
1　小児救急相談　2　大人の救急相談　3　医療機関案内

●小児救急電話相談 #8000（24時間対応）
※ダイヤル回線・IP電話などからは ☎048-833-7911

●精神科救急電話 ☎048-723-8699
※非通知設定はつながりません。
夜間・休日の緊急的な精神医療相談・医療機関案内です。
月～金曜日…17時～翌朝8時30分
土・日曜日、祝日…8時30分～翌朝8時30分

日曜・休日の昼間に耳鼻咽喉科の救急診療を実施しています
https://www.pref.saitama.lg.jp/a0703/jibika.html

埼玉県　AI救急相談　検索
チャット形式で症状を入力すると、緊急度の判定やアドバイスが得られます。

3月31日まで！ 成人歯科健康診査

対 市内在住で、令和7年度に40歳・50歳・60歳・70歳になる方（市内委託歯科医療機関にて無料で実施）
※対象者には、令和7年5月下旬に送付しているがん検（健）診等のお知らせにて案内しています。
問 地域保健課

広告

高齢者の予防接種

問 地域保健課予防接種室（菖 内線231）

◆インフルエンザ・新型コロナウイルス感染症　定期予防接種の実施期間は1月31日まで！

対 久喜市に住民登録があり、
・接種日に65歳以上の方
・接種日に60歳～64歳で、心臓、腎臓もしくは呼吸器の機能またはヒト免疫不全ウイルスによる免疫の機能に障がいのある方（身体障害者手帳1級相当の方）

自己負担額　インフルエンザ　1,500円
新型コロナウイルス感染症　12,000円
※生活保護受給者、中国残留邦人等の支援給付を受けている方は無料

希望される方は、医療機関に直接お申し込みください。詳細は、広報くき10月号または市ホームページをご覧ください。

連載　久喜歴史だより（第168回）
栗橋の古文書で謎の「うつろ舟」発見！

古文書に描かれた「うつろ舟」
（久喜市立郷土資料館蔵）

市指定文化財「岡田家文書」は、江戸時代に中里村（現在の久喜市中里）の名主を務めた岡田家に伝わった約4900点に及ぶ古文書で、令和7年（2025）3月に本市に寄贈されました。この岡田家文書の一つである「小笠原越中守知行流来候空船之図」に、謎の舟として現在までさまざまな議論が続いている「うつろ舟」が描かれていました。

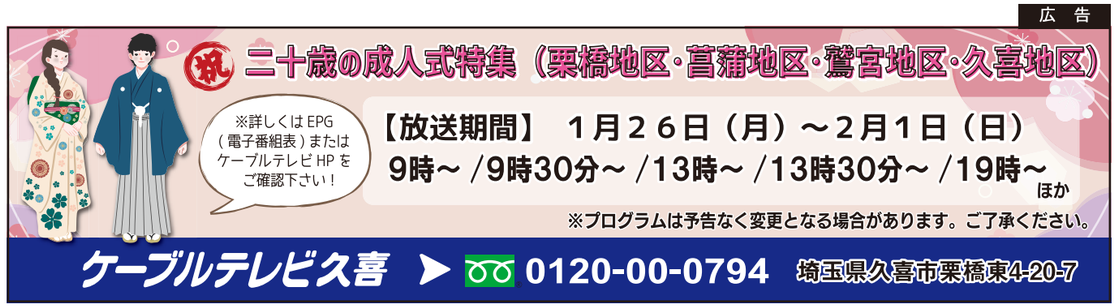
「うつろ舟（うつぼ舟ともいう）」とは、空洞の木から造られた舟のことで、日本の浜辺に漂着したという記録が各種残っていますが、享和3年（1803）2月に常陸国（現在の茨城県の南西部を除いた地域）の浜辺に漂着したものが特に有名です。舟にはガラスの窓があり松脂が塗られ、奇妙な文字も書かれていたとされています。そして舟の中には外国人らしき女性が箱を抱えて乗っていたとも伝わっています。

江戸時代の作家である滝沢馬琴（1767～1848）が文政8年（1825）に著した随筆『兎園小説』で、常陸国の「うつろ舟」が紹介されたほか、瓦版で広く紹介されたことで当時の人々の大きな話題となり、日本各地の文書に記録されました。

岡田家文書の資料では、「うつろ舟」のことを「空船」と書いて紹介され、二つのお椀を重ねたような形状や舟の窓、奇妙な文字や人物の絵が描かれています。当時の伝聞等を元に、そのニュースを文書に書き残したものと考えられます。

この「うつろ舟」が何であったのかは分かっていません。この漂着のニュース自体が単なる空想上の物語という説も多くありますが、舟に乗っていた女性は養蚕に関係する神様ではないかという説もあります。

現代人の目では、「うつろ舟」がまるで未確認飛行物体にも見えるように、江戸時代の人々も実際に未知のものに遭遇したというロマンを感じる方も多いのではないでしょうか。事実は分かりませんが、本市に「うつろ舟」の古文書が伝わったという歴史を通じて、さまざまな推理をしてみるのも良いかもしれません。

問 郷土資料館 ☎57・1200

広告